

おもしろ算数④⑤ (5～6年生)

(このページは、直接入力できません。そのまま見るか、いんさつして使ってね !!)

小学校5～6年生のみなさん、こんにちは。

おもしろ算数④⑤は、「計算のきまり」の問題です。



【問題】

小学校4年生で、次のような計算のきまりの学習をします。

【交かんのきまり】

㊦ $\bigcirc + \triangle = \triangle + \bigcirc$

㊧ $\bigcirc \times \triangle = \triangle \times \bigcirc$

では、問題です。

- ① ㊦のきまりは、ひき算のきまりでないのはなぜでしょう。
- ② ㊧のきまりは、わり算のきまりでないのはなぜでしょう。

【自分の考え】

答え. ①について、

たし算では、 $5 + 3 = 8$ $3 + 5 = 8$ というように、2つの数をたすときには「合わせてどれだけ」「全部でどれだけ」を求めるから、はじめからたしても、後からたしても答えは等しくなります。
ひき算になると、 $5 - 3 = 2$ $3 - 5 = ?$ というように、2つの数を引くときには「違いはどれだけ」「残りはどれだけ」を求めるから、はじめから引くのと、後から引くのは答えが等しくありません。

だから、㊦の「交かんのきまり」は、ひき算のきまりにはなれません。

②について、

かけ算では、 $3 \times 6 = 18$ $6 \times 3 = 18$ というように、2つの数をかけるときには「もとにする数の何倍（割合）＝全体の数」を求めるから、もとにする量と何倍（割合）の数が入れ替わっても全体の数は等しくなります。

わり算では、 $3 \div 6 = 3 / 6$ $6 \div 3 = 2$ というように、2つの数を割るときには「全体の数 \div 割合＝部分の数」や「全体の数 \div 部分の数＝割合」を求めるから、全体の数と割合や部分の数が入れ替わると答えは等しくありません。

だから、㊧の「交かんのきまり」は、わり算のきまりにはなれません。